

はじめに

戦後67年が経過して、私達の周囲から戦争の足跡は消え去りました。市内ではただ一つ残っている当時の旧中島変電所も間もなく取り壊しの運命にあります。生き残った樫の木も枯れ始めています。是非保存していききたいと頑張っています。

今や戦争体験者はご高齢となり数少なくなりました。この機会を逃しては戦争の記録を残すことが不可能ではないかと思えます。記録集の発行は2回目になりますが、更に多くの方々のご協力をお願いいたします。

わが市では、昨年、11月24日を「武蔵野市平和の日」と定め平和啓発事業を發展させています。武蔵野市から平和を世界に発信していきたいと思えます。

私の住まいである延命寺では平和観音菩薩を建立して、戦争犠牲者の慰霊と恒久平和を祈っています。また、空襲を体験した人達が持ち寄った戦争にまつわる遺物や資料を大切に保存し、機会あるごとに公開、説明を行っております。

この記録集は戦争の悲劇を体験した生き証人としての心の叫びであります。戦争の悲劇を繰り返させない願いをこめた、平和の大切さを後世に伝える教科書でありま

す。体験記をお寄せいただいた方々に対し心より感謝申し上げます。

武蔵野市非核都市宣言平和事業実行委員会

委員長 中里 崇亮

戦争体験記録集の発行に寄せて

このたび、武蔵野市民の戦争体験をまとめた「武蔵野から伝える戦争体験記録集 第 集」を発行いたしました。この冊子は、平成22年に発行した同体験集の続編となります。

おかげさまで、第 集は発行直後から多くの反響をいただきました。これを読んだ旧知の方同士が長い期間を経て再会するきっかけとなったり、改めてご家族やご両親から戦時中のお話を聞き取る機会となったという話も聞いております。夏季平和事業において、執筆者の方に皆様の前で体験をお話しいただいたこともあり、一冊の記録集が多くのご共感や縁を紡いでいることを実感しております。

第 集の発行以降、昨年3月11日、わが国は東日本大震災という未曾有の災害を体験いたしました。多くの尊い命が失われ、大切な家族や仕事、住まい、そして故郷を失った方々が大勢いらつやいます。かけがえのない平穏な日常や輝かしい未来が一瞬にして奪われてしまうことは、悲惨な戦争体験を彷彿とさせる悲しいできごとでした。

武蔵野市では、昨年、11月24日を「武蔵野市平和の

日」として制定いたしました。核も戦争もない、そして穏やかで安心な毎日が永遠に続くために、戦争体験の継承事業も含め、市民の皆さんとともに平和の大切さを発信していきたいと思っています。

今回は、34人の方の体験と、この夏、長崎市へ青少年平和交流団として派遣した中高校生の中から3人の作文を寄せていただきました。寄稿していただいた皆さん、そして編集にご協力をいただいた皆さんに感謝申し上げますとともに、一人でも多くの方に読んでいただけることを心より願っております。

武蔵野市長 邑上 守正